

通所リハビリテーション利用者における、QOLに関わる因子の調査 ー通所利用日と非利用日の活動量の比較ー

1. 研究の背景

通所リハビリテーション（以下、デイケア）利用の目的の一つに、QOL（quality of life）の向上があげられる。在宅生活を送っているデイケア利用者のQOLに影響を及ぼす要因としては、心身機能や身体活動量、栄養面を含めた全身状態、家庭状況等の社会的背景など様々な因子が考えられ、それらは複雑に関係している。そのため、デイケアという限られた時間の中で実際に行われているリハビリテーションが、利用者の生活およびQOLにどのように寄与しているのかが分かりにくい状況にある。そこで今回、利用者のQOL向上させるためにより効率良くリハビリテーションを提供できるよう、デイケア利用日と非利用日の活動量を比較し、QOLと各生活機能の関係を検討することとした。

2. 研究の目的

デイケア利用者に対してより効率の良いリハビリテーションを提供するため、デイケア利用日と非利用日で活動量の差異の有無、そして活動量に差がある群と差がない群においてQOLと生活因子との関係性を明らかにする。

3. 研究内容

当施設デイケアを1ヶ月以上継続して利用している利用者を対象とし、デイケア利用日と非利用日の活動量と、その活動量に差がある群と差がない群におけるQOLの有意差の有無を、t検定を用いて解析する。また、QOLと各生活機能について回帰分析を行い、関係性を検討する。

4. 倫理的配慮

利用者本人への評価（質問紙による評価、心身機能の評価）に関しては、利用者に過負荷にならないように配慮し、適宜休憩をとりながら実施する。また、活動量計による活動量評価に関しては、利用者本人だけでなく家族にも十分説明を行い、家族への負担も配慮する。いずれの評価においても、利用者および家族から中止の申し出があった場合には、評価を中止する。中止に当たっては、利用者への不利益は何ら生じない。

5. 研究責任者連絡先

研究責任者：リハビリテーション科 理学療法士 小林 誠
連絡先：076-253-5088（内線 5112）
（月～金、8:25～17:30）